

## 論文番号 258

### 担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

### 題名(原題/訳)

Naltrexone exerts a favourable effect on plasma lipids in abstinent patients with alcohol dependence.

ナルトレキソンはアルコール依存症で断酒中の患者の血漿脂質(レベル)に好ましい効果を及ぼす  
執筆者

Budzynski J, Rybakowski J, Swiatkowski M, Torlinski L, Klopocka M, Kosmowski W, Ziolkowski M

### 掲載誌(番号又は発行年月日)

Alcohol and Alcoholism 35(1): 91-97 (2000)

### キーワード

アルコール依存症、コレステロール、トリグリセリド、ナルトレキソン

### 要旨

これまでの疫学的な研究は、アルコール依存症患者の禁酒期間に前アテローム性の血漿脂質濃度変化による心血管障害の危険性が上昇する可能性を示している。この理由から、(アルコール)禁断症状の治療中に投与された薬物は血漿脂質濃度を上昇させないものを使用すべきである。この研究の目的は、断酒療法を受けている男性アルコール依存症患者 160 人の血漿脂質レベルに対するナルトレキソン、カルバマゼピン、ならびに炭酸リチウムの影響を評価することである。血漿脂質レベルは総コレステロール、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール、トリグリセリドについて 2 週間ごとに 20 週間に渡って測定した。各薬物療法(ナルトレキソン 50 mg、カルバマゼピン 600-800 mg、炭酸リチウム 500-1,000 mg を一日一回かまたはプラセボ)は二重盲検法に従って研究の第 4 週目と第 20 週目の間に行われた。結果の解析は、観察期間の 20 週間を通じて断酒が維持された 116 人の患者について行った。ナルトレキソンを投与された患者では、薬物療法を開始してから 16 週間後(第 20 週目)の血漿総コレステロール値( $P<0.01$ )ならびにトリグリセリド値( $P<0.02$ )で統計的に有意な低下がみられた。一方、カルバマゼピンを投与された患者では、薬物療法を開始してから 16 週間後の血漿総コレステロール値( $P<0.04$ )ならびに HDL-コレステロール値( $P<0.01$ )で統計的に有意な上昇がみられた。薬物療法開始 16 週間の時点で、ナルトレキソン投与患者はカルバマゼピン投与患者と比較して血漿総コレステロール( $P<0.03$ )、LDL-コレステロール( $P<0.01$ )濃度で有意に低く、炭酸リチウム投与患者との比較では LDL-コレステロール値 ( $P<0.01$ ) が、またトリグリセリド値ではその他の薬物投与患者より低下していた。これらの結果から、ナルトレキソンはその血漿脂質低下効果によってアルコール依存症の断酒中の患者で心血管障害の危険性を低下する理由でアルコール依存症患者の断酒療法に有効な薬剤であると考えられる。